



CS通信

北海道余市養護学校しりべし学園分校
学校運営協議会

令和6年度第1号（通巻7号）

発行：令和6年8月20日

令和6年度の学校運営協議会がスタート！！

令和6年7月22日（月）14時30分から、令和6年度第1回学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を開催しました。今年度は第1回から分校の単独開催となり、当日は、3名の委員の皆様をお迎えして、生徒の授業参観、学校長の学校経営方針説明後、全教職員が参加し、各部会に分かれて熟議を行いました。委員の皆様からは、分校の活動について御理解をいただくとともに、将来を見据えて、分校の子どもたちが目指す姿や黒松内町が分校に期待する姿について貴重な御意見をいただきました。



【委員の皆様：（左から）富樫委員（副会長）、梁田委員（新任）、金石委員】

令和6年度の学校運営協議会について

今年度の学校運営協議会について、社会に開かれた教育課程の実現に向けて教頭より説明がありました。今年度は次のテーマと内容で行っていきます。どうぞよろしくお願いします。

令和6年度テーマ 子どもたちが生き生きと地域から学ぶために
～地域で育て、地域と歩む、コミュニティ・スクールをめざして～

令和6年度の内容 1 回目（7/22）分校の子どもたちの目指す姿の共有
2 回目（10/4）地域資源マップや地域人材リストに係る熟議と協働
3 回目（2/7）地域資源や地域人材を活用した教育活動の実践発表と熟議

令和6年度の特徴

実感
UP

- ・全教職員の参画
- ・委員の方々と教職員の顔が見える関係づくり
- ・地域資源マップや外部人材リストなど連携・協働の見える化
- ・地域と連携した取組のこれまで以上の推進

連携
UP

地域とともにある学校づくり

コミュニティスクールを核とした地域づくり

学校見学（各学部の授業参観、学習の紹介）

（小学部）図工や生活単元学習で作った作品掲示をご覧いただきながら、日頃の学習の様子を説明させていただきました。

（中学部）ICTを活用した和太鼓の授業について、演奏する生徒の様子を御覧いただきました。また、今年度から行った黒松内町内の資源を活用した宿泊研修についても、掲示をご覧いただきながら説明させていただきました。

（高等部）昨年度から地域との交流で取組みを始めたフロアカーリングの様子や、地域から講師を招いて今年度から取組みを始めた武道（剣道）についてご説明させていただきました。



熟議（各部会）について

熟議について第1回目の目的を「目指す姿の共有」とし、教頭より、熟議のテーマとポイントについて説明がなされた後、各部会に分かれての熟議に移りました。熟議では、始めに各委員より、テーマに沿って御意見や御指摘などをいただき、教職員からも活発に意見の交流が行われました。

熟議テーマ ・将来を見据えて、分校の子どもたちが目指す姿とは
・黒松内町が分校に期待する姿

熟議にあたって のPOINT

- ①地域との連携は目的ではなく方法であること、
- ②「何ができるようになるか」「何が身につくようになるか」目的をもつこと
- ③地域と学校のWin-Win関係構築につながる
- ④ 5年後、10年後の社会を見据え、持続可能な内容であること
- ⑤子どもを主語にした内容であること



小学部会：金石委員との意見交流

小学部は子供の成長において重要な時期であり、小学部段階から将来の自立を見据えた教育が必要。自身の経験からも、子供が検定などにも挑戦したことで可能性を感じたことがあった。先生方には、子供たちの未来を諦めずに支えてほしい。経験を広げることのできるが増え、将来に繋がると思うので、挑戦を続けて欲しい。

分校と地域との関わりがもっと深まると良いと感じる。普通校と支援学校が一緒にある環境が望ましく、社会に出たときを考えると、交流が重要だと感じる。小さい町だからこそ可能なことも多く、音楽交歓会のような行事や、マナヴェールや温泉など学校外での作品展示も増えると良いと思う。地域の方にはアイデアを持っている方もいると思うので、できないは別として発信することが大切だと思う。



小学部で目指す姿「関わりと経験を楽しむ姿」

中学部会：富樫委員との意見交流

分校に通う子どもたちの中には、黒松内町に来るまで学校に通えず、普通の生活経験がなかった子もいる。しかし、分校での経験を通じて自分の可能性に気づき、自信を持つことができるようになっていく。地域の方々との交流を通じて感謝される喜びを知り、それが彼らの成長につながっている。地域の資源を活用し、ふれあう機会を増やしていくことが大切であると感じる。

他者から頼られる経験や褒められる経験を重ねることで、自信を育てている。また、他者と関わる経験を積むことで自分の考えを発信する力を高めることにもつながっている。今年度はフットパス協会との継続した活動から町内の資源を活用した宿泊研修を今年度行っている。一貫して継続することで、つながりが強化されて地域からのサポートもしてもらいやすくなる。



中学部で目指す姿「頼られ、ほめられる姿」

高等部会：梁田委員との意見交流

指導にあたる先生達が、生徒が成人した姿を想像し、イメージを持って指導に当たることが大切である。そのため実際に卒業生がどう生活しているかを目にしておくことも必要。子どもたちが目指す姿としては、将来生活する場所で愛される人になってほしい。その子らしさや良さを引き出したり、生かしたりして成長させてほしい。

地域の中で除雪や買い物、清掃活動など様々な活動を行い、姿をたくさん見せて欲しい。分校の子どもたちを知ってもらい認知されることで、協力も得られやすくなり連携が強まる。黒松内町での思い出を子どもたちは持って卒業している。また、実習などで受け入れてくれた地域の方々も覚えていてくれる。地域の方にも卒業後の様子を伝えて、感謝を伝えてほしい。先生達自身の地域とのつながりから現場実習先としてお世話になった経緯もあるので、先生達のつながりも大切にしたい。地域の中で経験を積むことで将来につながる。生徒が取り組みそうなことをまとめて、地域の方々にアンケートをとってもよいのではないかなと思う。



高等部で目指す姿「その子らしさや良さを発揮する姿」

学校全体で目指す姿「地域に必要とされ、愛される姿」

学校長よりまとめのご挨拶

熟議では短い時間の中で活発な意見交流をありがとうございました。今後の教育活動の中でどうつなげるかを先生達には考えていただくと共に、委員の皆さまには今後も助言をいただければと思います。また、熟議の様子を拝見する中で、地域の方にも先生達のことを分かっていたり、特技や趣味などを共有したりする取組み、顔の見えるつながりなどが大切なのかなとも思いました。本日はまことにありがとうございました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。【校長 宮岸 尚平】



【編集後記】

御意見や御感想等がありましたら、下記アドレスよりメールにてお知らせください。お待ちしております。

今後も、地域と繋がり、学び合う学校をめざしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【E-mail】

youchiyougoshiribeshi-z0@hokkaido-c.ed.jp